



当院 第 4 診察室 ドライビングシュミレーター

自動車運転再開への取組み

改正道路交通法が平成 21 年 6 月 1 日より施行され、75 歳以上の方は運転免許更新の際に講習予備検査(認知機能検査)と高齢者講習を受けることが始まりました。これは、加齢に伴い、認知機能の低下が著しい場合、自動車運転を継続することが危険であるため、免許返納を含めて検討するためです。当院には、多くの脳血管障害患者が入院しリハビリテーションを行っております。脳血管障害患者の場合も、身体機能の問題だけでなく、高次脳機能障害の問題があり、運転を再開出来ない場合があります。しかし、逆に運転できる可能性があるにもかかわらず、適切なアドバイスや訓練が受けられないために自動車運転を再開できずに、日常生活で不便を強いられる場合もあります。

これらの実情を踏まえ、我々は昨年 6 月より障害者自動車運転研究会を発足し、脳血管障害患者の自動車運転再開を支援する体制を整えました。都心のリハビリテーション病院で、自動車運転再開に積極的に関与している病院はなく、初めての試みであり、当院の果たすべき役割の一つと考えております。まずは、実態調査を目的に当院を退院した方々にアンケート調査を実施いたしました。その結果を踏まえ、現在は自動車運転再開を希望される方には、身

リハビリテーション科 医長 武原 格

体機能の評価、高次脳機能評価を行った上で、ドライビングシュミレーターによる運転評価を行っております(現在、外来患者様の新規受付は行っておりません)。ドライビングシュミレーターは、昨年 8 月より本田技研工業株式会社との共同研究が始まり、お借りしております。現在、毎月 4 名程度ドライビングシュミレーターを用いた運転能力評価を行っております。ドライビングシュミレーターで実際に運転することで初めて見えてくる問題点も多く、ドライビングシュミレーターは運転再開を判断する上で欠かせない機器として活躍しております。さらに近隣の自動車教習所にも当院の活動状況を説明し、ドライビングシュミレーターで見えてきた問題点を連絡し、実車教習をお願いし運転再開へとつながる体制も構築されました。

また自動車運転中の脳の活動を科学的に捉える試みも行っております。島津製作所と共同研究を行い、各種運転場面における脳の活動を近赤外光イメージング装置にて評価しております。

まだまだ問題は山積しておりますが、当院が自動車運転再開のモデル病院となり、運転する権利を守り、かつ安全に運転を再開できるように先進的な取り組みを継続していきます。

診 療 紹 介

1. ISPRM2009 訪問記

国際リハビリテーション医学会議 (the World congress of the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine:ISPRM)は、2年に1度開催され、第5回は、トルコのイスタンブールで、2009年6月13日から17日まで開催された。天候にも恵まれ、開会式から参加者やその家族が大勢出席し、期間中、171の教育講演、190の講演、1710のポスター発表が行われた。

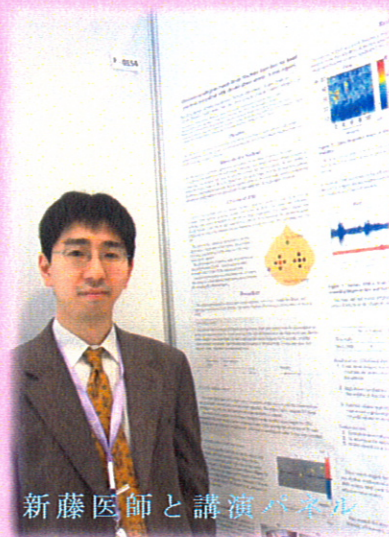
当院からは、私が、「Electroencephalogram-based Brain-Machine Interface for hand paralysis in a patient with chronic-phase stroke. A case report.」、地域リハビリテーション科の堀田医師が、「Rehabilitation management for disabled persons living at home:



6 months follow-up study.」の演題で、それぞれポスター発表を行った。私の発表は、慢性期脳卒中患者の麻痺側上肢を動かす運動イメージ訓練を繰り返すことにより、運動イメージによって起こる脳波変化が大きくなり、また運動イメージの識別率が上昇し、さらには麻痺側上肢の随意運動時の筋活動が増加した、という症例報告であった。

教育講演では、ドイツのNiels Birbaumer先生による「Movement restoration and communication in paresis: The status of clinical brain-computer interface (BCI)

リハビリテーション科 医長 新藤 恵一郎



新藤医師と講演ポスター

research」が、今回の私が発表したBCI研究の世界的な先駆者であるということもあり、最も興味深かった。残念であったのは、新型インフルエンザの影響のためであろうか、講演やポスター発表中止が散見されたことである。

イスタンブール市内よりモスクを望む



一方、イスタンブールはヨーロッパとアジアの接点とされ、1923年オスマントルコ朝滅亡まで首都であったこともあり、世界遺産の街並みはすばらしく、また世界三大料理とされるトルコ料理の味は格別であった。また、ベリーダンスの非常に滑らかな動き、そしてその美しさに、エキゾチックな雰囲気を感じた。

第6回の国際リハビリテーション医学会議は、2年後にプエルトリコで開催される予定である。この会議でも発表ができるよう、続けていきたい。

第46回日本リハビリテーション医学会学術集会(静岡大会)を終えて

リハビリテーション科 医師 伊藤 真梨

6月4日～6月6日、静岡市内で行われた第46回日本リハビリテーション医学会学術集会に参加してきました。あいにくの雨模様でしたが、全国から大勢の参加者が集まり、非常に盛り上がった学会だったように思います。

当院からは、武原医師が「アンケートによる脳血管障害患者の交通社会復帰の実態調査」、新藤医師が「Action Research Arm Testの妥当性・反応性—簡易上肢機能評価(STEF)との比較」、私が「蘇生後脳症により視覚失認を呈した症例の長期経過」について演題を発表しました。高次脳機能障害の分野でご活躍されている石合先生、豊倉先生をはじめとした先生方と肩をならべての発表で、緊張はしたものの、オーディエンスからも多くの質問や討論がなされる盛り上がったセッションに参加することができ、非常に勉強になりました。

リハビリテーション医療をとりまく厳しい現状、昨今の暗いニュースや経済状況の中で、医学医療従事者が未来へ向かって明るく挑戦できる様にとの期待も込め、学会のメインテーマは「リハビリテーション医学-夢と希望への挑戦-」と題し、宇宙や理工学など幅広い分野からの講演がありました。向井千秋さんの特別講演を始め、宇宙医学関連の先端シンポジウムも企画され、「重力」という要素が取り除かれた環境である宇宙とリハビリテーション医学の間には、廃用症候群のような関連するテーマも多く、参加者からも好評だったようです。また先端シンポジウムのもう一つのテーマとして、BMI(Brain-Machine Interface)に関する講演が多数企画されました。BMIは、運動や感覚に関わる脳活動を用いて外部機器を制御する技術ですが、リハビリテーション領域等でも臨床応用を目指し現在研究が進んでいる分野で、当院でも進行中です。

今回の学会では、主催者側のお手伝いとして、アジア各国やアメリカなどからいらした海外招待講演の先生方のアテンドをする機会もあり、海外で活躍される先生方がどのように日々の臨床をされているのか、またそれぞれの国が抱える医療

やリハビリ分野における問題についてお話を聞いたことは、大変貴重な経験でした。運よく？向井千秋さんとお話する機会もあり、同じ医師であり日本人女性である先生がエネルギーに活動されているお話にも、大きな刺激を受けました。3日という短い期間でしたが、改めてリハビリ分野の幅広さや可能性を実感し、限界ある中においても、探求する心を失わないことは大切なんだなあ・・・などと思いながら学会場を後にしました。



- 【写真左】
慶應義塾大学理工学部BMIブースを見学される向井千秋さん
- 【写真右上】
招待講演 Dr.Robinson (ワシントン大学) と伊藤医師
- 【写真右下】
学会場風景

回覧コラム（理学療法科）

～御蔵島村での活動～

理学療法科 主任 水口 健一



御蔵島の空撮

当院理学療法科では、平成 15 年より青ヶ島・御蔵島・利島における3島連携事業に協力し理学療法士を派遣しておりました。3島事業終了後、平成 19 年度より御蔵島村からの保健事業の依頼により、理学療法士を年 4 回派遣し継続活動しております。

御蔵島は東京から 200km 南に位置し伊豆諸島にある世帯数 154、人口 275 人（男性 151 人女性 124 人）の小規模離島です。村集落は密集し環境は坂道や階段が多く、膝や腰の痛みの訴えを多く聞きます。平成 20 年 4 月における 65 歳以上の人口は 44 名（後期高齢者は 23 名）、高齢化率は 16%です。

医療福祉施設は村診療所に医師 1 名、看護師 2 名、福祉センターにスタッフ 4 名、村役場に保健師 1 名が勤務しております。平成 20 年 6 月より週 2 回の生きがい型デイサービスが開設され、通所サービスが始まったばかりです。

保健事業における理学療法士の活動は、主に運動器疾患に対し、リハビリ個別相談や指導、また在宅生活者

への運動指導や住宅改修の相談、その他に関係スタッフとの勉強会や健康教室などを行っております。

昨年度は、保健福祉医療スタッフと協力し、65 歳以上の方を対象に転倒予防や介護予防、運動器の機能向上にむけた取り組みも始まりました。

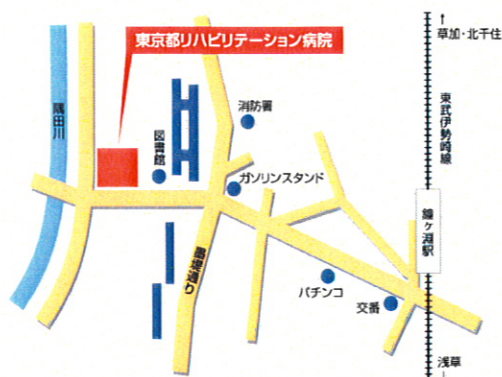
今後も、住み慣れた村で生き生きとした生活が送れるように、協力できればと考えております。



理学療法科 スタッフ紹介

東京都リハビリテーション病院 運営理念

身体に障害を持たれた方々が生きる喜びと希望を抱き、充実した人生をおくられるよう、医の原点に立った心温まる医療の推進をはかる。



東京都リハビリテーション病院 交通案内

- (電車) 東武伊勢崎線 鐘ヶ淵駅 下車徒歩 7 分
- (バス) 両国から都営バス「東京都リハビリテーション病院 (路線番号: 墨 38)」行き (約 30 分) 終点下車
- (お車) 首都高速六号線堤通ランプ下

本誌に関しますメールでのお問い合わせやご意見は、右記アドレスまでお寄せ下さい。 renkei-ito@tokyo-reha.jp 東京都リハビリテーション病院は東京都の指定管理者制度に基づき (社) 東京都医師会が運営する病院です。